

第 38 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成26年9月12日（金）10:00～11:40

2. 場所 一般社団法人 日本電気協会 4階A, B会議室

3. 出席者(敬称略, 順不同)

出席委員：金子議長（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），宮野（日本原子力学会 標準委員会 委員長），関村（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），新田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長），永田（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：伊藤（原子力安全推進協会）

代理出席：藤井（原子力規制庁 増原代理）

オブザーバ：小山田（日本機械学会 発電用設備規格委員会），大沢（電事連），石出（日本溶接協会），船橋（火力原子力発電技術協会），松澤（日本電機工業会），浦田（日本電機工業会），河井（日本原子力学会），西村（日本原子力学会）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本原子力学会 標準委員会 事務局 中越

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 荒川，沖，田村

(22名)

4. 配付資料

資料 No. 38-1 第 37 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）

資料 No. 38-2 深層防護ワークショップ実行委員会の活動状況（第1回 深層防護ワークショップの概要）

資料 No. 38-3 2014秋の大会標準委員会セッション

セッション1 リスク評価の完全性を目指した取り組みとその意義

セッション2 原子力安全確保のための論理的かつ統合的な規格基準体系

セッション3 原子力プラントの継続的な安全性向上対策採用の考え方

資料 No. 38-4 第1回溶接規格の技術評価に関する検討チーム及び第5回設計・建設規格及び材料規格の技術評価に関する検討チーム合同会合

資料 No. 38-5 JEAC/JEAGの燃料サイクル施設等への適用について（現状調査）

資料 No. 38-6 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要(案)

参考資料-1 原子力関連学協会規格類協議会 名簿

参考資料-2 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱

- 参考資料-3 日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格
- 参考資料-4 一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況
- 参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格資料

5.報告事項

(1) 委員変更、常時参加者変更及びオブザーバ出席の紹介

事務局より、常時参加者の変更及びオブザーバ、代理出席者の紹介があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より、資料 No. 38-1 に基づき、前回議事録(案)について紹介があり、原案通り承認された。

(3) 報告事項

1) 各学協会からの報告

各学協会から、以下のとおり、各学協会の活動状況の報告並びに、規格・規準の制改定状況について報告があった。

i) 日本原子力学会

日本原子力学会より、資料 No. 38-2及びNo. 38-3に基づき、第1回 深層防護ワークショップの概要及び2014原子力学会 秋の大会の標準委員会セッションについて報告があった。主な質疑、コメントは以下のとおり。

- ・深層防護に関して、意見交換の場を作りたいと考え、第1回のワークショップを開催した。考え方等共有していきたいため、今後も協力をお願いしたい。
- ・秋の大会のセッション1の資料について、「外的事象には深層防護が役に立たなかった、プレアセスメントがおそまつであった」とあるが、外的事象の対応がお粗末であり、他の人が実施すれば良いと思われるのではないか。この記載の意味は。
 - 福島事故に関して、例えば津波 PRA をしっかりやっていたら、結果が違ったのではないかと考えられる。外的事象の PRA をしっかりやっていく必要があることを記載している。
 - どこまで実施すれば不十分でなくなるのか、大切な問題と考えている。深層防護の検討が有効であっても、どのようなインプットが出来るのかが大切。
- ・別件になるが、先日、国の機関の方と、福島事故は地震が原因ではないと言っているが、そうではないのではないかと、との考えを持っているとのことであった。原子力学会でも、様々な意見があると思うが、どれ位の方々が、津波ではなく地震が原因と考えていると思うか。
 - 難しい質問であり、数字を持っているわけではないが、原子力学会では事故調査委員会を開催した。様々な方に議論に参加して頂いたが、地震が原因との意見は聞いていない。地震により壊れたものはあったかと思うが、事故に影響を与えるような損傷はなかったというコンセンサスは得られていると考える。
- ・深層防護に関しての資料で、各メーカーが課題として挙げたものについては、静的機器の単一故障の考え方等、実設計や許認可対応で実施していくものが多いと思われる。議論すべき問題

がある，ということで課題として挙げられたと思うので，バックフィットの考え方など，考え方を示すことが必要ではないか。

- 原子力学会だけではなく，機械学会，電気協会とも関係するため，ぜひ議論に参加してほしい。
- 原子力学会の3セッションとして原子力学会標準委員会が実施したが，3学協会にも関係するため，我々がどう考えていくかを考えないといけない。設計，運用等広い範囲を考える必要があり，分担も含めて考えていく必要がある。

ii) 日本機械学会

日本機械学会より，資料 No. 38-4 に基づき，JSME 設計・建設規格 2012 年版及び材料規格 2012 年版に対する技術評価状況の報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・解説も技術評価の対象としているが，考え方として良いか。
- 溶接規格は，溶接省令の時代から，解説に要求事項が書かれていたなどの背景，特殊性があるためこのようになっている。
- ・適用年版について，旧年版の記載が削除される可能性があるかどうかについて，規制庁としては，必要な評価を行った上での削除の可能性ありとの回答を得ている。適用年版がどうあるべきか，機械学会としても検討を開始した。

iii) 日本電気協会

日本電気協会より，資料 No. 38-5 に基づき，JEAC/JEAG の燃料サイクル施設等への適用について（現状調査）の報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・本件はこれで進めるとして，原子力規格委員会のシンポジウムでの指摘（廃炉，福島事故対応等），もんじゅへの適用等もれがないよう議論を進めていく必要がある。

2) 協議会幹事会からの報告

事務局より，資料 No. 38-6 に基づいて，原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要についての報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・3学協会だけではなく，他にも規格，基準，ガイドラインを作っている学会等があるため，規格類協議会には，なるべく多くの団体に参加して，議論できるようにしてほしい。
- ・産業界は自主的安全向上を進めているが，規格基準をどう進めていくか，広く全体を見て進めていきたい。規制庁も含め，インターフェースとしてどういった方々に参加して頂けるか，幹事会で検討してほしい。

6. その他

- ・次回の協議会開催日時は，平成 26 年 12 月 9 日（火）10:00 からとした。

以上